

羅針盤

介護福祉士

らしんばん



No.78
 令和元年 10月発行
 一般社団法人岡山県介護福祉士会
 〒700-0807
 岡山市北区南方2丁目13-1
 岡山県総合福祉・ボランティア・
 NPO会館「きらめきプラザ」7階
 TEL: 086-222-3125
 URL: <http://www.okayama-kaigo.jp>
 印刷編集協力: 友野印刷



えがお

毎年恒例の浅原桃花園夏祭り「ももたろう祭」が開催されました。
 あいにくの雨となってしまいましたが、地域の方々やたくさんのボランティアさんに助けをいただきながら、楽しいひと時を過ごすことができました。
 「楽しかったよ!」「バッチグー!」
 たくさんの笑顔や感謝の言葉が我々の元気の源です。これからも入居者や利用者の方々の「よかった。」の一言のために頑張っていきます。

特別養護老人ホーム浅原桃花園 吉川 信一

第25回 中国・四国ブロック研修会



— 介護福祉士制度創設30周年記念大会 —

テーマ 「岡山発～感謝、感動、可能性」

開催日 2019年6月21日（金）～6月22日（土） **会場** アークホテル岡山



第25回中国・四国ブロック研修会—介護福祉士制度創設30周年記念大会— テーマは「岡山発～感謝、感動、可能性」と題して開催いたしました。内容プログラムに関しては、1年以上前から実行委員長を中心にそれぞれ担当委員が練り上げました。

当日は、260人ももの参加者があり、終了まで盛大に研修会を行うことができました。ご来賓として、岡山県保健福祉部保健福祉課課長 渡辺様、岡山県老人福祉施設協議会 筒井副会長にご臨席賜り、暖かいお言葉を頂戴いたしました。また、講演をしてくださりました厚生労働省 福祉人材確保対策室室長 柴田拓己先生、AMDAの堀内美由紀先生、OiBokkeShiの菅原直樹先生、分科会で発表をしてくださった9県の方々、コメントをくださった各県の会長に感謝申し上げます。9年前には1日で終了の研修でしたが、今回は懇親会もあり他県の方との交流もしっかりとできたと思います。

昨年度から日本介護福祉士の助成がなくなりました。中国・四国ブロックは、この研修の灯を消してはいけないとの思いから継続することを決断しました。各県の多大な協力と岡山県の会員一人ひとりの力で成功したことは間違いありません。今後の介護福祉士の資質の向上と専門性を正しく社会に発信するために、一丸となって邁進していく必要性を感じた大会となりました。ありがとうございました。

第25回 中国・四国ブロック研修会 大会委員長 安達 悦子



1日目

■ 基調講演

「介護人材の確保等に向けた取組、諸制度の動向について」

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室長 柴田 拓己 氏

2040年までの人口構造の変化をみると、いわゆる団塊の世代が全員75歳以上になる2025年に向けて高齢者人口の増加は緩やかになる。一方で、既に減少に転じている生産年齢人口は、2025年以降さらに減少が加速していく。

介護人材確保の目指すべき姿として、

1. 人材のすそ野の拡大を進め、多様な人材の参入促進を図ること。
2. 本人の能力や役割分担に応じたキャリアパスを構築する。
3. いったん介護の仕事についた者の定着推進を図る。
4. 専門性の明確化・高度化で、継続的な質の向上を促す。
5. 限られた人材を有効活用するため、機能分化を進める。

「介護離職ゼロ」に向けた介護人材確保対策
(経済財政諮問会議)

- ① 中高年齢者・外国人など多様な人材の活用
- ② 働きやすい環境の整備
- ③ 介護に関する教育など介護魅力の普及啓発

その中でも注目しているのが入門的研修。介護未経験者の介護分野への参入のきっかけを作るとともに、参入障壁となっている介護に関する様々な不安を払拭するため、介護業務の入門的な知識・技術の修得のための研修を導入し、介護人材のすそ野を上げ、中高年齢者など多様な人材の参入を促進することを目的としている。

今後、入門的研修の実施から研修受講後の介護施設・事業所とのマッチングを行い、介護分野での雇用に繋がっていくことが望まれる。



様々な施策を組み合わせながら、生産年齢人口の減少に対し、介護人材のすそ野をどう上げていくか？そして外国人労働者の技術を上げることも我々の力にかかっている。

介護は屋台骨。それを支えるのは我々介護福祉士。

「世界に発信できる介護を目指していこう！」ということで締めくくられました。

(倉敷地区：広報・吉川)



医療的ケアアンケート

「介護福祉士が実践する医療的ケアの実態と課題」として、昨年度実施した「介護福祉士が行う医療的ケア等についてのアンケート」の調査報告をさせていただきました。

報告後には、県内外の会員の皆様から「今後しっかりと考えていかなければいけない課題である」とのお声を掛けて頂き、今回報告の機会を頂けたことを嬉しく思っております。

今回の報告を、医療的ケア等についての制度理解をはじめ、現状における実施状況や課題、不安等について改めて考える機会として頂けたらと思います。

調査研究委員会では、今後も継続的にこの調査内容についての検討を進めて参りますので、皆様のご意見、ご感想をお待ちしております。
(調査研究委員会委員長 瀧川 智子)



記念講演

「世界に目を向けた人道支援の現状～今、私たちにできることは何か～」

講師：特定非営利活動法人AMDA緊急救援ネットワーク 堀内 美由紀 氏

発展途上国では、患者のケアはみんな家族がしていることや、現地の看護師は詰め所でも何もしないこと、赤ちゃんを井戸から汲んだ水に浸けチアノーゼを起こして唇が青くなっていたことを聞き、人道支援の大切さを思いました。

日本は災害が多いが、災害での死者は少ないことは、弱いところを補って助けてくれることにあるのだと教えてもらい、西日本豪雨のときも、熊本の地震のときも専門職を生かした人道支援が行われていることを知りました。

私たちの出来る人道支援は、日頃の積み重ねが人道支援になっており、誰でも出来る。参加できる。社会的弱者、現場、対象者の声を聴き見て考えて伝える。それが私たちの出来る人道支援の第一歩。声に出す。言葉に出す。文章にすることで世界を変える。と教えていただきました。世界の発展途上国で活動されていた話はとても重く受け止めることができました。



(高梁・総社地区：広報・大森)

懇親会

懇親会には総勢140名の方々が参加して下さり、大変盛り上がりしました。青年隊晴れる家が懇親会の指揮をとり、全体の進行、クイズ大会など会場を大いに盛り上げました。また特別ゲストとしてうらじゃ踊りの「宇宙～SORA～」さんが来て下さり、参加者の多くが立ち上がって踊りに参加し、会場全体に一体感が生まれました。終わったあとで「楽しかった」という声を沢山聞き、とてもよい交流の時となったと思います。

(岡山地区：広報・早見)



2日目

分科会：多職種連携／包括支援／人材育成

【多職種連携】

第1分科会では多職種連携をテーマに4題の発表がありました。

多職種間での情報共有は、言語を統一する事、お互いに声をだす、否定もせずに、話しやすい環境を作る事が大切だと感じました。また、多職種で協力をして、その人を中心にして関わり、同じ目標を持つ事が大切であると感じました。

ご本人が今後どのように生活を送りたいか、また以前の生活に対して、どのように考えておられたかに寄り添う事の大切さ、家族と本人の思いのすり合わせを行う事、安心安全を確保して、本人を認め、自己実現に向けサポート体制を作る事、多職種間での相互理解・繋がりをいかに広げていくかが重要な事だと思いました。

日々業務に追われている日常であると思いますが、今一度専門職として考え、相互の思いを現実化できるように多職種間で連携して行く事が大切だと感じました。

(真庭地区：広報・森谷)



【包括支援】

第2分科会では包括支援をテーマに3題（①介護福祉士会として地域社会に貢献している発表、②福祉施設のネットワークを活かして地域の生活基盤を構築している発表、③地域における医療・介護力の底上げに努めている発表）の発表がありました。地域包括ケアシステムを構築する事こそが2025年、2040年問題を解決する為の重要な体制である事を再認識する事が出来ました。

(井笠地区：広報・池田)

【人材育成】

第3分科会では人材育成をテーマに5題の発表がありました。発表を通じ『思いの根拠を言葉にして相手に伝え考えさせること』が人材育成の基本であり大切な事だと感じる事が出来ました。また凝縮された様々なアプローチの仕方や新しい視点や知識を得る事が出来ました。

(井笠地区：岩本)

分科会発表内容

	発表者（県）	テーマ
第1分科会	1 乗松 雄希（愛媛県）	自己決定の懸け橋に…入所の日までに自分たちに何が出来るか～
	2 高山 道広（山口県）	～坐位で変わる生活～身体に合わない標準型車イスに座れるようにしてみよう
	3 平元 義経（広島県）	介護老人保健施設での介護福祉士の役割～在宅復帰に向けた支援～
	4 藤井 仁美（岡山県）	繋がるための理解と連携～生活支援員（介護福祉士）としての役割～
第2分科会	1 竹田 知彦（島根県）	『地域包括ケア』の一考察～入門的研修を通してみる2040年の地域介護～
	2 吉田 大典（徳島県）	県域における複数法人間連携について～美馬市くらしサポートネットワークの取り組み～
	3 磯田 明枝（岡山県）	地域の中で福祉を生き抜く～中山間地域オリジナルシミュレーショントレーニングの取り組み～
第3分科会	1 船津 幸美（山口県）	山口県介護福祉士会による「介護予防リハビリ体操（シルバーリハビリ体操）指導者」の養成について
	2 林原 豊（鳥取県）	介護現場における効果的な人材育成（自己能力開発）～自ら「考え」「行動し」「評価」できる人材へ～
	3 平池 隆志（香川県）	たまも園における人材育成の取り組み～『理念を実現するための人材育成』利用者本位を実現する～
	4 本山 将也（高知県）	介護現場で人を育てるということ～人を相手に仕事をする介護福祉士の役割とは～
	5 山田 健太（鳥取県）	チームアプローチによる認知症ケアの取り組み～認知症実践者研修から見てきたこと～

■ 講演・ワークショップ

「老いと演劇～認知症の人と“いまここ”を楽しむ～」

講師：OiBokkeShi 主宰 菅原 直樹 氏
(俳優・介護福祉士)



講演では劇団立上げの経緯や演劇を通じ、認知症について地域の方々に様々な発信を行っている事などをお話しして下さいました。ワークショップでは、ロールプレイを通じ認知症の方への肯定的・否定的な接し方の違いについて分かりやすく説明をして下さいました。相手の心に寄り添う事や肯定的に関わる事の大切さをワークショップを通じ楽しく学ぶ事が出来、とても有意義な時間となりました。



(井笠地区：広報・池田)

中国・四国ブロック研修会におきましては、県内外から多数の参加をいただきました。また運営につきましても、多くの会員の方にご協力をいただき、大盛況のうちに終わることができましたことを大変うれしく思っています。

「岡山発～感謝、感動、可能性」をテーマに掲げ準備してまいりました。全てがテーマ通りに準備できたわけではありませんが、介護福祉士という資格が始まって30年という時が経ち、この30年を振り返りながら感謝や感動をいただいたこと、またこれからの職能団体としての介護福祉士の可能性を探りながら、参加者がひとつになれたことを心からうれしく思います。

ありがとうございました。

第25回 中国・四国ブロック研修会 実行委員長 松島 智枝美



ご来賓の先生方



ブースの様子



会場の様子



日本介護福祉士会 石本会長(懇親会にて)



次回開催は愛媛県！

協賛・後援をいただいた団体・企業の皆様、ありがとうございました。

紹介します!

地区活動



地区研修

倉敷地区

地区研修

地区研修会

日時：2019年5月19日(日) 会場：特別養護老人ホームますみ荘 テーマ：地域住民から求められる施設の役割
講師：美作大学特任教授 小坂田 稔 先生(専任教員)

実は小坂田先生は私の恩師であり、学生時代の社会福祉援助技術論を思い出すような講義でしたが、「今、社会福祉施設に求められていること」と題し、盛りだくさんの内容をトピックスを織り交ぜてお話し下さいました。

「老々介護」「認認介護」さらには「逆転介護」「ダブルケア」など家族構成の変化により、複雑化している介護者の実態を、データを交えて分かりやすく解説して下さいました。

現在の生活問題・ニーズの特徴として、
様々な制度の狭間の問題が出現し、

・ ・ ・ **地域における生活ニーズは多様化・複雑化・重複化**
特に「**社会的孤立**」の問題は重要課題である。



必要となる幅広い関係者の連携・協働活動。

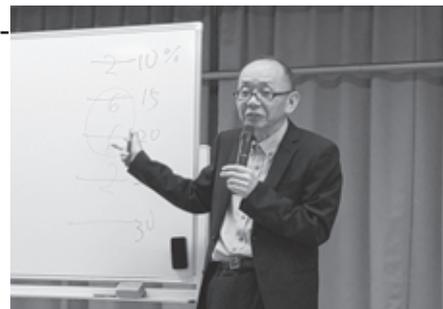


社会福祉法人(福祉施設)の出番!!
(地域公益事業・活動)

*自助力をささえる公助力・共助力・近所力の連携・協働活動が必要。

「地域における広域的な活動」の事例として、大阪府の

社会福祉後見事業(生活困窮者レスキュー事業)や「滋賀の縁 創造実践センター」でのこども支援、高齢者施設による障害児・者入浴支援、生活困窮者支援、認知症の人への就労支援、岡山県内の取り組みなど様々な事例を紹介して下さいました。



地域住民と社会福祉法人を主とする「社会福祉を目的とする事業を経営する者」などは、分野・領域を超えて、互いに連携・協働して様々な地域課題の解決に取り組んでいく。めざすのは地「参」・地「笑」(ちさん・ちしょう)。そういった点において福祉施設の果たす役割は大きいというお話でした。

認知症の人の就労の場としてオープンした「注文をまちがえる料理店」。認知症の人がサービスの支え手になる。人は役割があれば生き生きとする。そして次の暮らしが見えてくる。「受け手だった人が支え手にもなる」それが「地域共生社会が目指すところ」だというお話は目から鱗でした。
(倉敷地区：広報・吉川)

真庭地区

地区活動

ベッド上での移動修正 クッションの使用時の座り直し 段差のある移乗・狭い場所での移乗 と言う内容で実技をしました。

落合病院：飯島 信博氏・久松 大介氏/
金田病院：服部 洋佳氏をお迎えしての実習でした。

昨年の発展形という事で実技をお願いしました。

利用者の重心の動かし方を重点的に教えていただきました。

日々の介護現場ではどうしても自己流で慣れてしまう事が多いですが、教えていただいた方法を使うと介助を受ける側・介助を提供する側の力を使う量が減り、負担が軽くなりました。

実際に体を使い介助者側の動きを体験すると、技術をしっかりと反復して身に付けて行きたいという意見がたくさんでした。指導も分かりやすく日々の業務に生かしていきたい、内容でした。





今回参加できなかった人にも教えてもらった事を伝え、フィードバックができれば自分自身もスキルアップできると思いますし、働く環境も少しずつ改善して行く様に感じました。今後も地域にある病院のリハビリの先生と繋がりを持ち情報共有をしてより良い介護を目指して行きたいです。

(真庭地区：広報・森谷)



8月30日、介護福祉について「真庭市で語ろう！」座談会を行いました。初任者・中堅・役職の3つのグループに分かれ、介護福祉士としてのやりがい感や今自分が直面している課題などについて話し合い、発表を行いました。

【参加された方の声】

- 他の事業所の方の意見は新鮮で、同じ意見もあったり、新しい発見や刺激があったりと勉強になりました。同時に、共感する事もあり、自分だけが抱えていることではない事に安心しました。
- 他施設で働く同じような経験年数の方と話す機会があまりないので、とても貴重な経験になりました。

(真庭地区：広報・山崎)

地区だより

美作地区

ご存知の方も居られると思いますが、認知症を抱えた方がホール担当として働く「注文をまちがえる料理店」、東京都から始まった認知症への理解を深める活動が全国的に広がってきています。岡山県でも初めて「注文をまちがえるかもしれないレストラン」として、津山市地域包括支援センター主催で取り組まれたので参加してきました。津山市内の飲食店協力のもと「特養のどか」のご利用者様が主にホールを任されて、5・7・9月と3回開催されました。間違えても笑顔の絶えない「ま、いいか」と言ってもらえる寛容な気持ちが広がる社会を目指し、認知症の正しい理解とともに、居心地良くコミュニケーションをとることを目的としています。お客様アンケートには「おばあ



ちゃんとの楽しい会話が新鮮で仲良くなれました。」「認知症の方も働ける場所があるってとても良い事と思いました。」といった言葉もあり、早瀬豆富・早瀬久善店主は「企画で終わらず元気な高齢者には続けて働いてもらいたいです。」とのこと。認知症を抱えても出来る事はたくさんあります。それを老いだとか認知症だからとあきらめ奪ってしまう世の中を改めなければなりません。お互いに理解し易いように敢えてホール担当なのかもしれませんが、適材適所をみんなで考えてノーマライゼーションの視点に立った地域社会が求められています。様々な立場にある方々が、協力し合う関わりや支援の輪が、大きな輪に広がるように感じた楽しいひと時でした。

(美作地区：神田)

//がんばっています//

青年

隊

「晴れる家」隊員**青年隊「晴れる家」活動報告!****福祉の職場体験ツアー**

2019年7月31日に老人保健施設エスペランスわけて受け入れをされた、社会福祉協議会で企画されている「子供の福祉の職場体験ツアー」のボランティアスタッフとして参加してきました。

子供達に福祉の仕事を体験してもらうために、晴れる家メンバーが高齢者役を演じて食事介助の体験をしてもらいました。始めは、緊張から声かけにも躊躇している子供達でしたが、一口目がうまいくと笑顔も出て「どうぞ、美味しいですか?」「これが最後の一口ですよ」など優しい声かけも自然としてくれました。晴れる家メンバーは2年前にも同じ企画に参加してもらいましたが、その時よりも場数を踏んできたおかげか、

上手に子供達にポイントを説明してくれていて、メンバー達の成長も感じることが出来ました(笑)

子供達はその他にも通所リハビリの見学やリフト車の体験などもしてもらい、短い時間でしたが、一生懸命に体験をしてくれる姿を見て、自分達もこの仕事に誇りを持って働いていきたいと改めて思いました。良い経験の場を頂きありがとうございました。

(晴れる家代表 甲加)

**香川県交流会**

8月4日、香川県介護福祉士会若者会チームKが企画された交流会に参加してもらいました。チームKの恒例となってきた、バーベキューをしながらの交流会で、初対面の方達とも気兼ねなく交流出来るように、細やかな配慮が色々とされていました。

チームKとはお互いの企画に顔を出す関係を続けてきているため、顔馴染みの方達も増えてきて、晴れる家の仲間もいつも暖かく迎え入れてくれることに本当に感謝しています。

また、色々な相談を普段からさせて頂いており、晴れる家の活動に、何か行き詰まったり、これでいいのかなと悩む時などにも、アドバイスをもらったりとお互い切磋琢磨させて頂いています。

今年度からチームKは代表が変わり、メンバーの方も新しい方が増えていました。新しく動き出したチームKに負けないようにお互いに力を合わせて、晴れる家もまた頑張って魅力的な企画を進めていこうと思います。

(晴れる家代表 甲加)



特別養護老人ホームのどか（津山市）施設見学

特別養護老人ホームのどか様にご協力いただき、晴れる家の東北チーム主体で企画、開催しました。施設見学は2班に分かれて行き、各階毎に少しずつ違う風景や特色を感じました。以前他施設で感じた「プライバシー保護と開放感の両立」が備わったリビングの木の枠も印象的でした。見学後にアイスブレイクとして伝言ゲームを行うと、予想以上に伝わらない難しさに、自然と緊張もほぐれた様子でした。グループワークでは「介護の成功談&失敗談」をテーマに語り合い、一人一人それぞれの介護歴や施設形態によつての違いを知ることが出来、お互いの刺激になりました。合間には「晴れる家カフェ」として、お菓子や飲み物をいただきつつ、参加者同士で色々な話が出来ました。

去年に引き続いての施設見学でしたが、参加の方々も他施設を知ることが出来て良い刺激になった様子なので、来年以降も続けて取り組んで行けたら良いなと思いました。
(晴れる家 西本)



中国・四国ブロック若者会議 in 岡山

6月21日、中国・四国ブロック9県の若者が集まり、各県それぞれの課題や取り組み、今後の活動内容についての情報共有を行いました。今年で開催4年目を迎える若者会議は、中国・四国ブロック研修会の開催に合わせて行っています。第1回目の会議の時、私は晴れる家に入りたてで、他県でも若者が職場が異なれど同じ思いを持った仲間たちで集まり、晴れる家と同じように介護福祉社会のPR活動や研修会や交流会を行っていることを初めて知りました。それから4年後の今年、岡山を舞台に中四国9県の代表たちをお迎えすることができたこと大変嬉しく思います。

会議の前半は、中国・四国の若者会の先駆者でもある、広島県若者会“絆”に活動紹介をしてもらいました。日頃声にできないことを思いっきり話せる場にしたいという思いから語り場を開催したことをきっかけに、スポーツ大会をはじめとした交流会を通じて、若者の横のつながりを大切にしてきたことを紹介してくれました。長年にわたり若者会を続けてきて、見えてきた課題、行事のマンネリ化やメンバーの固定といった晴れる家にも共通する課題があることを知ることができたと同時に、この若者会議を今後も定期的に継続しその都度情報交換の場を持つことで、自分たちの活動をより良いものに昇華していきたいと思いました。

後半は、次年度の愛媛大会での若者会議でしてみたことをグループに分かれて話し合いました。中国・四国の若者界全体のハッシュタグのようなものを導入したい・介護に関する2ちゃんねる・県対抗のクイズ大会・レンジャーものをしてはどうかなど様々な意見が出て、有意義な時間となりました。

今回の会議で知り合った他県の方とのつながりを、今後の晴れる家での活動に活かしていけたらと思います。
(晴れる家 小橋)



介護技術指導者フォローアップ研修会

介護技術指導者としての介護技術の統一、指導者として必要な視点や技術を見直し、指導力の向上を図るためのフォローアップ研修を行っています。



日時 7月5日(金)

会場 きらめきプラザ

講師 岡山県介護福祉士会 副会長・技術指導委員長 齋藤 七七重 氏

参加された方の感想

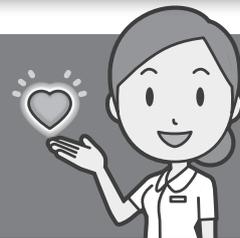
研修に参加し、介護技術の基本を再度学びました。介護技術には基本があり、なぜそのようにするのかという根拠を理解しているから、応用に繋げていくことができる。この研修は、参加者全員が個々に講師役となり実技を行ったので、とても分かりやすく、色々な指導方法があるという事を学ぶ事ができました。参加できてよかったです。

(井笠地区：上川)



中堅職員研修会

～災害支援ボランティアリーダー研修～



日時：7月17日(水) 会場：きらめきプラザ

講師：一般社団法人島根県介護福祉士会 会長 山本 克哉 氏

中堅職員研修「災害支援ボランティアリーダー研修」に参加しました。講師から具体的かつ現実的な質問が投げかけられ、介護職としてどう行動するか、また人としての生き方が問われるような研修となりました。講義とグループワークを通して災害支援について、参加者一人一人が深く考えるときとなったと思います。

講義では、日本介護福祉士会が作成している「介護福祉士災害支援ボランティアマニュアル」を通して、ボランティアの心得、介護福祉士としてできるボランティアについて学びました。またグループワークを通して、「当事者の立場に立って、被災したとき何に困るか？どう行動するか？」「もし自分が勤務中に被災した場合、優先順位はどうなるか？」など非常にシビアですが、現実的に向き合っ考えなければならぬテーマについて話し合いました。

参加者からは、「実践的で自分の行動を考えさせられ、参加して本当に良かった」などの声がありました。(岡山地区：広報・早見)



事務局からのお知らせ

おかやま介護フェア 2019

開催日 2019年11月3日(日・祝)

会場 岡山ふれあいセンター

映画「ケアニン」上映会 他
みんなで介護の日に向けて、
フェアを盛り上げましょう!



第5回おかやま介護グランプリ 2019 開催決定!!

開催日 2019年12月8日(日)

会場 岡山コンベンションセンター

見学者大大大歓迎!!
皆様のお越しをお待ちしています♪



岡山独自の研修ポイント制度終了のお知らせ

平成23年4月より、研修ポイントを利用して岡山県介護福祉士会主催の研修会に、無料で参加できる制度を行ってまいりました。

会員様研修会参加の啓発、入会へのアピールとして一定の成果を上げてまいりましたが、**今年度末(2020年3月31日)をもって終了させていただきます。**

会員様からは好評を得ている制度ではありますが、消費税の増税等、研修にかかる経費が大きくなっている中で制度の継続が困難と判断いたしました次第です。

今後は、日本介護福祉士会の生涯研修ポイントの活用だけに統一させていただきます。

《100ポイントで1,000円の研修受講券(申請式)》

どうぞよろしく願いいたします。



みんなの広場

ほっとステーション



～私のお勧め～

癒しを求めて南太平洋タヒチに行ってきました。
 成田からタヒチまで約11時間のフライトです。ボラ
 ボラ島までは1時間で到着。
 憧れの水上コテージで、昇る朝日に感動!!
 夜になれば一面に星空が…。
 ブルーラグーンの海ではエイやサメとシュノーケリン
 グ。透明度抜群の海です（紙面がカラーではないのが
 残念…）。
 陽気なタヒチアンの人柄、時間に追われることのない、
 のんびりした贅沢な時間を味わってきました。

PN：タヒチ



おっちょこちょいなおじいちゃん

なみ 画



ほっとステーションへの投稿をお待ちしています

あなたの職場の様子や利用者さんとの
 日々のやりとりを教えてください。
 同じ“介護”で働く皆さんが共有できる、
 そんな情報をお待ちしています。



編集担当		
岡山県介護福祉士会 広報委員会		
菅原 光子	小橋謙太郎	池田 和輝
平松 稔之	森谷 謙作	大森 幹人
早見 潤一	山崎 一範	平井 大介
吉川 信一	西本 光男	立間百合子
内藤 佑弥	河島 友美	池田 和彦
甲加 勇樹	磯田 明枝	